

2015年（平成27年）2月26日

逗子市教育委員会教育長 様

逗子市立久木小学校長

平成26年度 「学校評価（自己評価）」年度末評価について（報告）

次のとおり 平成26年度 学校評価（自己評価）における年度末評価をご報告します。

三つの柱	項目	学校が重点的に取り組んだ項目の主な成果	学校が重点的に取り組んだ項目の主な課題と次年度改善策
I 子どもたちの学力向上	1 個に応じた指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・校内研究において算数科を中心に研究・研修を進め、言語活動の充実を目指した。 ・全学級が研究授業を行って教師の指導力の向上を図った。 ・研究内容に関わって外部講師からレクチャーを受け、本校の研究を振り返り、成果と課題を確認することができた。 ・家庭学習（宿題）の意味を踏まえ、より学習習慣が身に付くように配慮し、その提示の仕方を工夫した。 ・「児童の習得状況から考える」視点を持って学習の定着度について振り返り、課題を確認した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・これまで同様、教師の授業力の向上を図る研究を進めたい。特に、経験年数の少ない教師の育成に力を入れたい。 ・6年間の育ちを意識しながら研究を進め、日々の学習指導に丁寧に当たりたい。 ・「児童の習得状況から考える」の資料を基に、各学年の教育課程を見直し、久木小の実態に合った内容に整えていきたい。課題の見える学年へのサポート体制を検討したい。（T2など）
	2 健やかな心と身体の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・学習支援ボランティアを活用し、稲作作り、大豆作り、昔遊び等の体験活動を実施し、食物を生産することやお年寄りとおふれ合うことを通して豊かな心の育成を図った。 ・今年度も継続して、味噌作りや豆腐作り等の活動を進めた。その学習の発展として、異学年間の交流や地域の方々との交流を深めることができた。保護者にも学習参加を積極的に呼びかけた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校支援地域本部の活性化を図り、より充実した体験活動を進めたい。 ・久木小ならではの活動を他の題材や単元との調整を図りながら無理のないよう教育課程に位置付けていきたい。 ・保護者の学習参加が学校の教育活動にプラスの効果として働くよう、情報を密にしながら取り組みを進めたい。

II 課題に迅速 に対応する 学校づくり	1 多様な教育課題 への対応	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度も学校防災体制の確立に取り組んだ。これまでの調査研究を踏まえ、大規模災害時の第一次避難場所を屋上とした。 ・久木小が実施している避難訓練を基に、「防災教育年間計画」を作成し、教職員が年間を見通して防災に係る指導を実施することができるように考えた。 ・4年生を対象として「防災教育」を実施した。(地震、津波：講師は防衛大教授) ・教育相談コーディネーターを中心に校内支援体制の充実を図り、ケース会議等を開きながら課題を抱える児童の支援を進めた。「学年」を意識した児童支援を考えることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・作成した「防災教育年間計画」を、避難訓練等実施する中で検討修正を加え、より現実的なものとなるように整理していきたい。 ・保護者・地域・学校が連携を図れるよう、避難所開設も念頭にしたりより分かりやすい緊急時の対応マニュアルを検討していきたい。 ・今年度初めて実施した「4年生対象の防災教育」を次年度以降も継続していき、児童の防災意識を高めたい。 ・一人一人の教員の支援教育に対する意識を高め、支援体制の一層の充実を図りたい。
	2 地域に開かれた 学校づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・学校支援地域本部事業を推進し、サポーターシステムを活用して、学習支援、学校環境整備に努めるとともに、校庭芝生化事業に取り組んだ。登下校の見守り活動、読み聞かせ等の活動も年間を通して実施することができた。また、学校・地域・保護者が共同で創る「わくわくフェスティバル」も実施し、交流を深めることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校のニーズを把握し、より効果的なサポートを得られるよう計画していくことが継続課題となっている。学習支援、環境整備、学校・保護者・地域が共同で創る行事の3つの柱をバランスよく配置し、無理なく取り組める体制を整えていきたい。
III 教員の指導 力向上	1 教員研修・研究の 充実	<ul style="list-style-type: none"> ・校内研究において、算数科を中心に授業研究に取り組んだ。昨年同様、教育研究所主催の各種研修にも多くの教員が積極的に参加し、研修に励んだ。 ・夏季休業中に体育の校内研修会(講師は校内教員)、後期には生活科の研修会(外部講師)を実施した。 ・ことば・きこえの教員による研修会を実施した。一人一人の児童を振り返り、教師の関わり方を学ぶよい機会となった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・これまで取り組んだ研究内容は継続していく。しかし、テーマについては、より具体的なものに変更を検討したいと考えている。 ・ことば・きこえの教員による校内研修は、次年度以降も継続していきたい。年齢や経験に関係なく、今の教員に求められるものがこの研修にはあると期待している。